

甲状腺外科草子 20 (承前)

中江藤樹 (伊予大洲編)

杉野 圭三

大洲訪問

滋賀の安曇川を訪問した後に、藤樹が25年間過ごした伊予大洲も探訪したいと考えていたが、2008年3月ようやくその機会を得た。松山から伊予大洲まではJR宇和島線特急で約1時間、「特急」という名前ではあるが、感覚的にはのんびりとした速度の旅であった。

大洲は藤堂高虎、脇坂安治の治めた地であり、肱川の中州には有名な大洲城が聳えている。冬季は強風と霧の発生による「肱川あらし」で有名である。市内をゆっくり散策したが春の陽気で、温暖・風光明媚な印象の街であった。



大洲の街並みと肱川、中州にある大洲城

大洲城は明治21年に天守が壊されたが、平成16年に天守の再建が行われた。近世では珍しく木造での再建となり、城の内部の木組みには太い木材が使用され、稀に見る貴重な城となっている。



壮大な大洲城

藤樹の住居跡地は現在、県立大洲高校の敷地内にあり、地元有志により**至徳堂**と名付けられた書院が再建されている。

ここを訪問するには、まず大洲高校の受付で見学許可を乞う必要がある(難しいことではなく、ただ挨拶するだけである)。

受付では高校が作成したパンフレットを頂いた。簡単ながら良くまとめられた貴重な資料である。



住居跡地



至徳堂



藤樹木像

「至良知」の額

室内には、木像や塾の規則を記した「藤樹規」、「至良知」の額など数々の藤樹ゆかりのものが飾ってある。



大洲高校作成の資料(無料) 藤樹規

地方の県立高校の中に、さりげなく日本教育史を飾る偉大な人物の足跡が残されていることは、大洲の人々の大きな誇りであろう。

塵一つなく、清掃・整理された敷地や室内の景観に大洲の人々の思いを知ることができた。

(広大第二外科同門会誌 DOMON 122, 2008年を改訂)

参考文献

内村鑑三：『代表的日本人』(岩波文庫)

大洲高等学校、中江藤樹先生と大洲、

(一甲状腺外科医の徒然なる随想)

2022年3月3日